

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】藤岡 真樹

【所属】(助成決定時) 京都大学大学院人間・環境学研究科

【研究題目】アメリカ合衆国における学知の再編とそのメカニズムに関する研究

【研究の目的】(400字程度)

本研究は、1940年代後半から1950年代初頭のアメリカ合衆国におけるソ連研究を題材に、その代表的な拠点であったコロンビア大学ロシア研究所とハーヴァード大学ロシア研究センター、それにマサチューセッツ工科大学(以下、MIT)においてソ連研究が立ち上げられる経緯を跡づけ、冷戦初期のソ連研究が制度と組織の両面においていかなる「再編」を遂げたのか、そして同時代の学術研究再編のメカニズムを明らかにしようとするものである。

冷戦初期のソ連研究について、多くの先行研究は、大学人と国家との緊張関係に着目してきた。本研究では、そうした知見に加え、ソ連研究は国家のみならず「学知」との間にも「緊張関係」をはらみ、それらの間で大きなゆらぎを経験した学術領域であったとの視座から、上記の課題に接近するものである。

【研究の内容・方法】(800字程度)

アメリカにおけるソ連研究の起源については諸説あるが、大規模かつ組織的な体制の下でソ連研究が開始されたのは、第二次世界大戦期の戦時機関である戦略情報局(以下、OSS)ソ連研究部門においてである。最大時には40名以上の研究者を抱えたソ連研究部門であったが、第二次大戦の終結とその後のOSSの解体によって、コロンビア大学やハーヴァード大学など主要大学へ研究者が移籍し、そこで新たなソ連研究が立ち上げられることになった。

本研究では、まず、1946年9月にコロンビア大学にロシア研究所が設立される経緯を、コロンビア大学や同大学に資金を提供したロックフェラー財団に残された一次史料を用いて、特に設立の理念および構想に注目して迫った。本研究を通じて、ロシア研究所は第二次大戦期にOSSソ連研究部門で部門長としてソ連研究を牽引したジェロイド・ロビンソンによって設立された機関であったにもかかわらず、連邦政府との直接的な関係を絶ち、学術研究者や高度職業人のための教育訓練に特化した機関となったことが明らかになった。

続いての対象は、カーネギー財団が計画を主導し、1948年2月にハーヴァード大学に設置されたロシア研究センターである。カーネギー財団は、行動科学を中核に据えた、それまでの地域研究とは異なる新たなソ連研究を合衆国政府の冷戦政策とも絡めた形でハーヴァード大学に叢生させることを目指していた。しかし、カーネギー財団が残した史料などによれば、設置後のハーヴァード大学ロシア研究センターでは、ソ連への関心が総じて低く、むしろソ連をケース・スタディとして行動科学研究の洗練や刷新に取り組む傾向があったという。ゆえに目的とされていた「新たな」ソ連研究の創出は蹉跎をきたしていた。

しかし、そうしたハーヴァード大学のソ連研究に方向性を与えたのが、1950年11月から翌年1月に国務省と契約研究を結んだMITが取り組んだソ連研究「トロイ計画」であった。この研究は、それまでのソ連研究がソ連の分析に比重を置いていたのに対し、ソ連を敵国と規定した明確な対ソ戦略研究であった。このトロイ計画にMITのみならずハーヴァード大学からも多くの研究者が参加したことが、ハーヴァード大学ロシア研究センターに冷戦政策に対応したソ連研究(対ソ戦略研究)遂行の必要性を認識させ、その後の同センターのソ連研究のあり方を大きく変える契機となるのである。

【結論・考察】（４００字程度）

コロンビア大学ロシア研究所は、ソ連専門家の教育訓練機関に特化したものの、それは、同研究所がソ連研究を放棄したことを意味するものではなかった。大戦後もロビンソンが学外の外交政策エリートが集うサロンなどで依然としてアメリカのソ連研究のあり方に影響力を行使し続けていたことからして、コロンビア大学の事例は、ロシア研究所所長のロビンソンが OSS 時代から育て上げてきた彼なりの「ソ連研究」を、合衆国政府の冷戦政策や反共主義が渦巻くアメリカ社会に摩擦なく「軟着陸」させようという、「再編」のひとつのあり方であった。

ハーヴァード大学ロシア研究センターと MIT のトロイ計画は、冷戦初期のソ連研究を合衆国政府の冷戦政策と親和性のあるものに変容させるのに大きな役割を果たした。しかし、注目すべきは、ハーヴァード大学にも MIT にも、合衆国政府との接近に慎重な声や逡巡があったことである。これらのことからすれば、両大学におけるソ連研究の「再編」もコロンビア大学の場合と同様にソ連研究が国家と学知の間で揺れ続けていたことを示すものであった。この国家と学知とのはざまから学術領域が制度化されることが、冷戦期のアメリカの学術研究再編のメカニズムの一端であったと考えることができる。